

うふうに言ってもわかんないのも理解できます。でも、そこまでやってしまったら、本当に大変だなという思いありまして、この辺の質問をさせていただきます。

そこで、さっきから言われてる文科省の放課後教室と、厚生省の学童クラブですか、それと今度一緒にした何かプラン、放課後総合子育てプランっていうんですかね、それをつくるといふことで、それを聞くと、先ほど教育委員長からもあったように、もうとにかく全生徒、全児童だと、こういうことで広げると。学校と、そんじゃ、そこんところの関係って、どこにどういうふうになんのかっていうのは、物すごくわかりにくいんですよ。そんじゃ、そのまま学校の施設使って、全部でしたら全部したらいいんじゃないかっていうふうに言いたくなるわけですよ。ところが、ここはだめですよ、例えば体育館利用できないんですかっていったら、体育館は何か制約でだめだと、そこは使わせないかってあるんだそうですけども、その辺が非常にこれ難しいところで、私ら議会としても、その辺まで突っ込んで議論っていうのはなかなかしてないと。この間、お話を聞いた施設整備だけ聞いてますので、一部の、さっき言った伊佐沢とあれは先行してるなんていう話を聞きましたけど、そういう意味でいいですよと、やっぱりもう一度、言ったように来年の子どもプランというのがあるんだそうですけども、それまでの間、きちっと施設の新設のことも含めて、慎重にやっぱり議会も含めての議論を行っていただきたいということを再質問できませんので、要望して質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

## 我妻 昇議員の質問

○小関勝助議長 次に、順位9番、議席番号7番、我妻 昇議員。

(7番我妻 昇議員登壇)

○7番 我妻 昇議員 よろしくお願ひいたします。

2003年4月の統一地方選挙で長井市議会議員に初当選させていただきましてから、ほとんど全ての定例会で一般質問に立ち、多方面から市政をただし、さまざまな提案をしております。11年と5カ月の間、議長を初め議員の皆様、市長並びに当局の皆様、そして市民の皆様からご指導、ご享受いただきましたことに対しまして、心から感謝申し上げますとともに、この貴重な経験を生かし、次なるステップへ挑戦してまいりたいと決意を新たにしているところであります。

私には集大成という言葉はなじまないと思っております。まだまだ発展途上だと自覚しております。本日で最後の一般質問になろうかと思っておりますが、何も特別なことではなく、これまでどおり気づいたこと疑問に思ったことを質問させていただきますので、ご答弁のほどよろしくお願い申し上げます。

1つ目は防犯灯、街路灯についてであります。

平成25年度から電源立地地域対策交付金や元気臨時交付金などを財源に、市内3,000カ所の防犯灯を順次LED化する事業に取り組んでおります。電源立地交付金の使い道については何度か指摘いたしましたが、児童センターの人員費に充てるよりずっと目的に合致した使い方だと思っておりますし、ほとんどの防犯灯は電気代が地元負担となっていることからしても、このLED化の事業は大変有意義な事業であると思っておりますので、確実に進めていただきたいと願っているところであります。

そこで、昨年度から現在までの進捗状況はどのようなになっているのか、当初の計画よりも前倒しで早く進んでいるように思いますが、どう

か、市民課長に伺うものであります。

次に、街路灯についてであります。

全国的に商店街がシャッター街とやゆされるようになってから久しくなっていました。長井市におきましても店舗が激減し、商店街のにぎわいが失われつつあるのは同じ状況であります。それと同時に、かつて華やかだったネオンやアーケード、街路灯の老朽化も進み、一部は危険な状況に陥っているようであります。今や会員数が半減してしまい収入が先細りの商店街にとって、これら老朽化甚だしい街路灯を新しくする体力は、残念ながら残ってないと勝手ながら思っております。

つまり、自分の商売を維持するのがやっとの現状では、街路灯の老朽化対策に行政の支援が必要になるのではないかとということでもあります。もしこのまま時が過ぎてしまえば事故なども予想され、安全・安心が崩れてしまいます。商店街でも老朽化に備えて、積立金などの原資は多少なりともあるのだとすれば、市が支援することで解決していける問題ではないかと思えます。既に国の補助金を活用し話を進めているとも聞き及んでおりますが、それはどのような内容でしょうか。取り組もうとしている事業の概要と今後の進め方について、商工振興課長にお聞きするものであります。

2つ目の質問は、雨水排水用の側溝の管理についてであります。

2年連続の集中豪雨による水害により、長井市は甚大な被害を受けてしまいました。国、県の支援を受けながら、早急に復旧工事や根本的な対策工事を進めていただくようお願いいたすものであります。

その中で一つ、町なかの水路冠水について考えてもらいたいことがあります。それは雨水用の側溝の管理であります。地区長さんや側溝付近にお住まいの皆さんからたびたびご指摘をいただいております。ふだんはほとんど水の流

れがないものの、降雨時は水が集まり大きな水路に排水される側溝のことです。その側溝には泥や砂がたまりやすく、グレーチングなどからは生い茂った草が顔を出している場合があります。車で走行すると気づかないのですが、徒歩だと結構気になって、草をむしりたくなるほどです。実際、草をむしっても堆積物が厚いのですぐまた生えてくる状態です。時々、消防団には砂や泥を洗い流してほしいと地区から依頼があると聞いたこともあります。

市道でも、県道でも同じ状況が見受けられるようですが、長井市や県の側溝管理はどうなっているのでしょうか。実態を把握しているのでしょうか。この際、水害対策の一環でそのような箇所を調査し、側溝の中を空の状態にしておくべきではないかと思いますが、いかがでありますでしょうか。建設課長にお答えいただきたいと存じます。

3つ目は、山岳観光にも力を入れるべきではないかです。

私ごとですが、ここ数年、少しだけ登山に目覚め葉山や祝瓶山に登っております。といっても、1人で登る勇氣はありませんので、長井山岳会の皆さんにガイドしていただける民衆登山に参加する程度でございます。大ブームではありませんが、富士山の世界遺産登録の後押しもあり、全体的に登山はちょっとしたブームになっているように感じています。そのせいか、ことし5月11日の葉山民衆登山には100名もの参加者があり、山岳会初め関係者が、過去最高ではないかとびっくりされておりました。

100名のうち75名は市外、県外者でありましたので、手ごろで安全な登山が人気なのではないでしょうか。今、山岳観光、アウトドアツーリズムは発展、拡大の動きであるようです。来月の10月2日には、山形駅前に東北最大のモンベル山形店がオープンすることからも、確実な需要があることがわかります。モンベルは大阪

に本社がある登山などアウトドアスポーツ関連用品の製造販売、イベント企画運営を手がける大企業です。そのようなちょっとしたブームの中、長井市は山岳観光にどの程度力を入れているのでありましょうか。

小国町では食文化や温泉を登山と絡めて旅行商品を企画したところ好評を得ており、リピーターも多いと伺いました。長井市でもそのような資源や人材を生かした旅行商品を企画し、観光交流につなげてみてはいかがでしょうか。長井市での山岳観光の現状はどうか、観光振興課長に伺います。

また今後、可能性が膨らむ分野として、もっとももっと力を入れるべきだと思いますが、来年度以降の取り組みについてどのような検討がなされているのか、市長の考えをお聞きし、壇上からの質問といたします。ありがとうございました。（拍手）

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻議員のご質問にお答えいたします。

我妻議員からは、私のほうへは3点目の山岳観光にも力を入れるべきではないかというご提言でございます。

議員がおっしゃいますように、今、登山が静かなブームになっていて、山岳観光は今後力を入れていかなければならないことの一つというふうに考えております。

日本生産性本部のレジャー白書2013によりますと、登山の参加人口、これは年間1回以上登山した人ということでございますが、平成24年に860万人で、前年の810万人と比べると50万人ふえているということでもあります。近年でピークだったのは、平成21年で1,230万人でした。その後、東日本大震災があり激減しましたが、ようやく回復基調に入ったようでございます。

健康増進を目的に山に登る人がふえたようです。その牽引役と言われるのは中高年層だそう

です。登山人口のうち、60歳以上の割合は4割を超えます。その年代では、10人に1人以上が年間1回は山に登った計算になります。一方、30歳から50歳代では、登山する人の割合は男女とも10%に満たない状況です。

登山ブームの追い風となりそうなのが山の日です。平成28年から祝日がふえることになりました。8月11日を山の日と定め、国民の祝日とする法律がことしの5月に成立しました。山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝するというのが山の日を祝日に定める趣旨でございます。また、平成25年6月に富士山が世界遺産に登録されました。毎年7月から8月、富士山には約30万人が登ります。平成25年はシーズン終了後も登山者が相次ぎました。環境省の箱根自然環境事務所によりますと、9月に約3万5,000人が富士山に登ったそうです。最近ではファッションブルなアウトドアウェアをまとう山ガールも登場し、ブームを支え、登山人口の裾野はさらに広がりそうです。

山へ行く目的は登山のほか、もみじ狩り、溪流釣りや山菜とり、ハイキング、キャンプなど多様ですが、長井市には祝瓶山や葉山、三淵、百秋湖などの有望な山岳観光資源を抱えております。これらの資源を磨き上げ、山岳観光にも力を入れていきたいと考えております。また、山岳観光は、広域での取り組みが重要なことから、周辺市町村と連携して取り組んでまいります。

ただ、山は登山やキャンプを楽しむだけにあるのではございません。山の環境を保護し、育てていく視点も忘れないようにしたいと考えております。細部については、観光振興課長から答弁いたさせます。

私のほうからは以上でございます。

○小関勝助議長 松本 弘市民課長。

○松本 弘市民課長 私にご質問のあった防犯灯LED化推進事業の進捗状況についてお答えい

たします。

防犯灯LED化推進事業を始める前の平成24年度末現在で、市内に設置されていた防犯灯の総数は3,005基になっています。このうちLEDのものは46基でございました。防犯灯LED化推進事業等により、平成25年度中にLEDに交換された防犯灯は871基、新設は6基となっております。このほかに通常の不点修理のうち器具の交換が必要になったことによりまして、LEDに交換したものが66基でございます。この結果、平成25年度末現在の防犯灯の総数は3,011基となり、このうちLEDのものは923基で、全体の30.7%となったところでございます。

今年度は、防犯灯LED化推進事業により540基を交換するとともに、新設を22基、通常の不点修理のうち器具交換を100基と想定しておりまして、合計で662基の防犯灯がLEDになる予定でございます。したがって、今年度の事業が予定どおりに完了すれば、今年度末現在の防犯灯の総数は3,033基となり、このうちLEDのものは1,585基で、全体の52.3%となる見込みでございます。

次に、25年度、26年度の事業費及び財源等についてでございますが、25年度につきましては502基を交換いたしました防犯灯LED化推進事業、事業費が981万7,500円、この財源につきましては、電源立地地域対策交付金981万7,500円全額を充当させていただいたところでございます。

もう一つ、255基の老朽化した木柱を撤去し、新たに鋼管のポールを立てながらLED化を推進した事業がございますが、この事業費が5,092万5,000円、財源につきましては地域の元氣交付金5,092万円を充当させていただいたところでございます。

防犯灯添架の木柱撤去及びLED防犯灯移設工事というのがございますが、これにつきましては、木柱は撤去したものの近くにあるNTT

柱あるいは東北電力のコンクリート柱のほうに防犯灯を新設したものでございまして、事業費につきましては354万600円、財源につきましては全額一般財源ということになっております。

このほか、以前からの要望による新設及び不点修理によるLED化で新設6基、交換66基、財源は全額一般財源となっております。

次に、26年度の事業関係でございますが、一つが市道沿線の330基をLEDに交換する事業といたしまして860万6,000円がでございます。こちらのほうにつきましては、財源が電源立地地域対策交付金779万円を充当させていただく予定になっております。

もう一つ、県道沿いの210基を交換する事業といたしまして、事業費が495万5,000円、こちらの財源につきましては、水力発電施設周辺地域交付金440万円を充当する予定になっております。そのほか17基を新設するというところで予定しておりますが、事業費が520万4,000円、こちらのほうにつきましては、財源が地域経済活性化基金520万円となっているところでございます。

今年度も通常の新設、それから不点修理によるLED化もございまして、新設分が5基、交換を100基と想定しているところでございます。

なお、議員からお話がありました財源の関係でございますが、電源立地地域対策交付金につきましては、25年、26年度の2年間にわたって交付されることが内定しているものでございまして、ご指摘の交付金につきましては、水力発電施設周辺地域交付金のほうだと思います。

以上が防犯灯LED化推進事業等の進捗の状況でございますが、この事業につきましては、平成25年度から29年度までの5年間の予定で始めたものでございます。したがって、年間500基ということで当初計画していたものでございますが、ご指摘のとおり26年度末では、先ほど申し上げましたように1,585基が終了するめどとなっておりますので、計画よりも若干

進捗が早くなっているものと思っています。

今後も水力発電施設周辺地域交付金などの特定財源を有効に活用するなどして、残り3年間の事業完了を目指したいと考えているところでございます。以上です。

○小関勝助議長 梅津和士商工振興課長。

○梅津和士商工振興課長 我妻 昇議員のご質問にお答えさせていただきます。

我妻議員からは、私のほうには1の防犯灯、街路灯についての(2)老朽化が進んでいる商店街の街路灯に支援をとというふうなご質問だというふうに思います。

この件につきましては、中央地区北部振興協議会というふうな組織がございますが、その中の要望事項でも取り上げられまして、過日、市長がご回答をしております。

商店街の街路灯が老朽化しており、電気代がかかり過ぎるといふご心配があり、庁内でも各課と横の連携をとりながら検討をしたところでございます。その後、機会を見計らいまして、市内の5商店街組織の代表の皆さんがお集まりいただいた際に、商店街まちづくり事業という事業がございますけれども、この事業についてご説明させていただきました。

この商店街まちづくり事業につきましては、国の経済好循環の実現に向けて、経済産業省所管の平成25年度補正による補助事業でございます。

事業の概要でございますが、今回は商店街組織等が地域住民の安心・安全な生活環境を守るための施設設備の整備のうち、行政機関からの要請に基づくものに対して、まちづくり補助金という名前で支援をするというふうなものでございます。その支援の内容につきましては、補助率3分の2、補助上限が1億5,000万円というふうな事業でございます。

この商店街まちづくり事業において、商店街で所有する街路灯等の改修が事業の趣旨目的に

合致するというふうに判断いたしましたので、市内の5つの商店街組織の皆さんにお話をさせていただいたということでございます。

その各商店街組織において検討をされました結果、3つの商店街組織が申請の意思を示されたために、書類等を作成いたしまして、添付資料を整備していただいて、8月15日が今年度の提出期限でございましたので、申請手続きを完了いたしました。3つの商店街と申しますのは、大町通り商店街、高野町商店街、長井中央商店街振興会の3組織でございます。この事業の内容につきましては、主に電球のLED化を図りまして、消費電力の軽減を図るといふふうなものでございます。

採択結果につきましては、内示につきまして9月末あたり、交付決定が10月末あたりに予定されているようでございます。今後の採択状況にもよりますが、行政支援の内容を検討し、できる限り商店街組織の負担軽減を盛り込みたいというふうに考えてます。具体的には、工事費などについては負担のかからないような支援を検討してまいります。ただし、電気代は地元で負担していただきたいというふうに考えてございます。

また、この事業が、交付決定が先ほど申し上げましたように10月の末というふうな予定されておまして、それから諸手続、交付決定後の手続等がございますし、事業期間につきましては、要綱上、平成27年12月25日というふうになっております。このことから、商店街組織では、雪が消える4月以降に実質的な工事に入る計画というふうにお聞きしておまして、申請の内容もそうなっておりますし、次年度の当初予算、平成27年度当初予算において計上させていただいて、実施する方向で調整を今現在図ってございます。

中心市街地活性化を推進する上では、各商店街の安心・安全な生活環境を守るということは、

ひいては子供やご高齢の方の安全・安心につながるというふうなことから、非常に重要項目だというふうに捉えてございます。今後も国などの補助事業を有効に活用しながら、中心市街地活性化に向けた取り組みを一層推進してまいりたいというふうに思います。

私のほうからは以上です。

○小関勝助議長 松木 満建設課長。

○松木 満建設課長 それでは、私から我妻 昇議員から雨水排水用の側溝の管理はという点についてお答えをさせていただきたいと思えます。

側溝は道路の一部として、県道であれば県、市道であれば市が道路管理者として管理をしていますが、雨水排水を処理するものや用水路として機能を備えているものもでございます。

道路側溝は、市も県も同様の管理を今行っております。基本的には道路パトロールを行って、その係員が目視点検をして、その水路の機能が損なわれているというふうなことで判断をすれば、しゅんせつ等を行うというふうな手段をとっています。また、地区長さんからのご連絡、通報などによって、我々職員の方で確認をして対応をするというふうな場合もございません。

地区によりましては、側溝の泥上げなどを地区のボランティアとして実施をいただいているというふうなところもございます。その際は、市では上げた泥を上げるケースを配置をしたり、あとは泥を回収をするなどをさせていただいております。また、協働のまちづくりの支援事業を活用して、そのような側溝の土砂を上げていただいている地区もございます。地区で側溝のふたを外す作業とふたがけなどの作業を行っていただいで、実際に泥を上げるのは業者のほうの専用の機械で上げていただいているというふうな地区もございます。

できれば協働によるまちづくりという視点からも、そのような形で地域の方々からもボラン

ティアとしてお手伝いをいただければなというふうには思っておりますが、基本的には管理をしていくのは市というふうなことになってございますので、私たちとしても目くばせをしてるつもりですが、気づかないところがあれば、皆さんからもご確認をいただいでご連絡をいただければというふうに思います。

私のほうからは以上でございます。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 我妻議員のほうから山岳観光についてご質問がございましたので、先ほど市長のほうから基本的な答弁ございました。私のほうからは細部についてお答えさせていただきたいと思えます。

まず、観光客数でございますけれども、朝日連峰の長井口、それから草岡口、勸進代口、白兔口の利用者数については、平成25年度、年間2,100人ほどであろうと推定しております。あと、野川溪谷や木地山ダムのほうにつきましては、同じく平成25年度、年間9,500人ほどであろうというふうに推定しております。

次に、ハード面でございますが、登山道の整備、それから葉山山荘の管理などを行ってございまして、登山道の整備につきましては、山岳団体の方をお願いして下草刈りなどをやっていただいております。

あと、3番目ですけれどもソフト面、登山イベントにつきましては、長井山岳会の葉山民衆登山、それから祝瓶市民登山、それから別の岳人長井の葉山登山と祝瓶登山、それから西根小学校や致芳小学校の葉山登山などの登山イベントがあります。また、関連しまして、最上川リバーツーリズムの百秋湖遊覧が昨年行われまして、大変にぎわったかなと思っております。

4つ目につきましては、広域連携でございますけれども、朝日連峰の市町村と、それから周辺の市町村、それから県、環境省などと連携を図っているいろいろやっております。今回、山形県

のほうで山岳資源の魅力向上推進プロジェクト事業の第1回会議が8月19日に開かれました。その会議の座長に長井市の観光振興計画を策定していただいた折の策定委員長である清水慎一先生が就任していただいておりますので、そういった面と連携を保ってやっていきたいと思っております。

朝日連峰につきましては、日本百名山の一つでございます。全国的に知名度も高いわけでございますが、蔵王のように開発の手が入っている山ではございませんで、観光地というよりは手つかずの自然がそのまま残っているところといった側面があるかと思えます。そういったものを求めて登山者が訪れているというふうにうちのほうとしては認識しております。ですから、そういったニーズを念頭にして、観光振興課としては、これからも取り組んでいかなきゃいけないというふうに思っております。以上でございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

ちょっと頭がこんがらがらるんで、今答えていただいた部分から、最後からやりますけれども、観光の一つのこれからの伸びの部分で、この山、山岳観光、アウトドアツーリズムとか、その部分が大変注目されていて、先ほど例に出したように、モンベルという最大手の会社が山形駅前大きな2階建ての店舗出すということで、あれかなり注目されてると思えます。それは月山だとか蔵王だとかあると思うんですけども、朝日連峰も大朝日の小屋にも泊まれないくらいのお客さんが来るというふうに聞いておりますし、こちらのほうにもたくさん期待できるわけですね。山ガールっていう話出ましたけども、やっぱり形から入る、物から入るっていう人がかなりいらっしやると思えます。まず、モンベルに行って物を買って、それから登ってみようなんというふうに考える方もいらっしやると思いま

す、私も実際そうだったんですけども。

そういうふうに、一つの何か流れがあったときに、後手後手に回るとせつかくのすばらしい祝瓶山、マッターホルンと言われる祝瓶山ですとか、大朝日に連なる山々ですとか、その魅力を伝えられないまま、月山や蔵王や大朝日岳にとどまってしまうっていうようなことでは、ちょっともったいないんですよね。せつかく近くにそういう大きいものができるということで、ぜひ予算も使っていただきたいなと思ってたんですが、決算のほうを改めて見たら、ことしは100人でしたけども、葉山の民衆登山に対する市からの直接のお金っていうのは、予算というのはないんですよね。登山道整備はもちろん75万円でしたか、そのくらいあったやに思いますけども、祝瓶登山にしる、葉山登山にしる、どういうふうをお願いしてるんですかね。大変危険なんですよ。前と真ん中と後ろに何人かずつ山岳会の人たちがついてくれて、私たちは安全に登れますけれども、山岳会の人たちは大変危険な思いをして、重たい荷物を持って、もしものときのために備えて一緒にガイドしていただけるんですけども、その辺はどういう関係なんですか。市のほうの予算というか、どういうふうに、お願いするっていう立場なんでしょうか、それとも勝手にしてるっていうことなんでしょうか。予算面で何かあるんでしょうか。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 お答えいたします。

山岳イベントにつきましては、現在、市の主催のものはございません。全て登山団体が、山岳関係の方が主催してやっていただいております。その中で、唯一、長井山岳会が白つつじの時期に行う葉山民衆登山、これがちょうど白つつじの時期に重なってやるもんですから、共催イベントというふうなことで、観光協会のほうからわずかながらですが助成金を出ささせていただいてるというような状況でやっております。

これまでの山岳イベントにつきましては、観光というサイドで成り立ってきたのではなくて、専ら登山関係者が仲間を集めて登ろうというふうなことで、同好会というか、愛好会、そういった趣味の集まりという形で発展してきたというふうなことで、観光が余りこれまで関与してこなかったという部分があるのかなと思っております。

長井山岳会の葉山民衆登山につきましては、60回ほどの歴史を数えるとお聞きしておりますので、こういったイベントについては、やっぱり大事にやっていかなきゃいけないのかなと思っております。以上でございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 はい、わかりました。

市の主催でなくて、葉山民衆登山だけは共催にしているということで、観光協会からその予算の一部が出てると、今2万円と言いましたかね、2万円出てるということですけども、ちょっとそれでは余りにも100名を超えるお客さんが来る中で、2万円というのはちょっと信じられないんですけども、それは来年度以降、力を入れていくという市長の力強い話がありましたので、それを期待して、せっかくそうやって長井を注目されて、市外、県外から75名も来てくださっているのを私も間近に見まして、あれはぜひリピーターになって、そのほか、山だけじゃなくて、長井の四季折々を楽しんでいただきたい。先ほど手つかずの自然というふうにおっしゃいましたけども、まさに手を入れる必要はなくて、このままでいいんです。小国でやっているのは、五味沢の小国側から祝瓶に登っており、麓のリフレっていう施設だったでしょうか、温泉もあって宿泊もできる施設で、山菜をどうやってとるのか、その山菜をどういうふうに料理するのか、味わってみて、お酒を飲んで、泊まって帰る、これがとても都会の方々に受けてるという話を小国の山岳会の方から直接お聞

きしまして、いいなというふうに思っております。

長井にも温泉があるわけですね、温泉があって、山菜もいっぱいとれるわけですので、名人もたくさんいらっしゃいます、山男もたくさんいらっしゃいますんで、そういった意味で、都会から、あるいは近郊から、仙台などから誘客ができるんだろうなと思っておりますので、それは山岳会の人のはぎ苑と直接やればいだろうということにもなるかもしれませんが、ぜひ市のほうでも音頭をとっていただいて、そのつながりをつくって、ぜひ長井を好きな山岳好きな人をぜひ長井に呼びたいなど。先ほどのモンベルの話もありますので、その辺を一体化して営業していただきたいと思うんですが、もう一度、観光振興課長の答弁をお願いします。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 山岳観光につきましては、先ほどちょっと触れましたけれども、まだ観光というふうにはなかなか難しくって、やっぱり山岳団体のボランティアによって成り立っているという部分が非常に多くございます。ですから、現在ガイドにつきましても、山岳ガイドと公式に言われる人は長井市内で2人だけとお聞きしております。そういった実態がございますので、一気にぐっと行くというわけにはなかなか長井の現状としては難しいのかなと思っております。ですから、環境整備の面で、市としていろいろこれから努力していかなきゃいけないだろうと思っております。以上です。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 来年度以降のことは市長にお伺いしてたんでした。市長にも同じような質問ですけども、今言ったように山岳ガイド、正式な方はお二人ということで、1人は八木先生で私も講座を受けてますけれども、そういった本当のプロの方ですね、趣味でやってる以上のプロになれるような方の養成も含めて、今



後の山岳観光、アウトドアツーリズムで人を呼ぶ、今の現状はもうほとんど趣味の一環に頼っているような状況でございますので、来年度以降の市長の考え方、もう一度お聞かせください。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まずは、観光振興課長からありましたように、例えば今回の葉山民衆登山みたいなどころに、団体のほうからもっとこういったことで支援してほしいというご依頼があれば、これはしていかなきやいけないだろうと思いますが、それよりもまず先にすべきは、この行革ずっと進めてる中で、登山道の整備など、これが大変なんですけども、皆さん、それぞれの山岳団体のほうでほとんどボランティアでいろいろやってくさっているんですね。私どもから若干、それから県のほうからも少し委託料みたいな格好でお願いしてるんですが、ここをもう少しきちんとしながら、やっぱり安全で、そして安心して山岳登山を楽しめる、そういう条件づくりもあわせてしなきゃいけないかなというふうに思っています。

それともう一つは、やはり登山といいますと、祝瓶山とか私登ったことないんですが、普通の初心者の方でも大丈夫だとは聞きますが、もう少し幅を広げて長井ダムの上流の濁沢とか百秋湖と、それから桂谷とか、あの辺のトレッキングができるような、そのためにはやっぱりまだ全然相談してないんですが、八木先生みたいな方々にいろいろご協力いただいて、少し宿泊ぐらいでキャンプしながらとか、いろいろ楽しめる、そういった観光のあり方なども模索していかなきやいけないんじゃないかなと思ってまして、ぜひ山岳観光も含めて、今後どういうやり方がいいのか、残念ながら今のところ私どもの長井市の観光行政の中では、その部分が余り観光として今までやってこなかった部分でございますので、検討すべき項目だなというふうに思っ

ているところです。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 長井は観光を産業にするというふうに明言してるわけですので、山岳観光は可能性のある、その中でも大きな可能性がある分野だなと思っておりますんで、登山道整備も5月に葉山に登ったときも、もう崩れたところがたくさんありまして、本当危険な思いも一部しましたし、今回の7月の豪雨でどういふふうになったかは、ちょっと現場見ておりませんが、大変な状態だと思います。祝瓶山のほうも一部かなり危険な箇所があるけれども、登っている方もいらっしゃるんで大丈夫だと思うんですけども、ぜひつり橋も含めて、山岳道の整備のほうにも力を入れつつ、観光の誘客にぜひ力を入れていただきたいなと思いました。よろしくをお願いします。

あと防犯灯、街路灯ですけれども、商店街の街路灯のほう、その前に防犯灯のほうで私ちょっと勘違いしてたんですね、予算のほうで何かちょっと違う言い方しましたけれども、予算の財源のほうをちょっと勘違いした部分がありましたけども、わかりました。

商店街のほうは、私もちょっと又聞きだったもんですからわかってなかったんですが、老朽化対策だと思っていたんですけども、あくまでもLEDにするだけなんですか、その電球を。もう柱とか、何ももうぼろぼろなんですよ。そういったことなんですか、それとも電球だけっていうことなんですか、その辺、商工振興課長、お願いします。

○小関勝助議長 梅津和士商工振興課長。

○梅津和士商工振興課長 お答えします。

この利用できます事業については、先ほど申し上げましたが、商店街まちづくり事業のまちづくり補助金というふうなことで、老朽化対策事業ではございません。ただし、先ほど申し上げましたように、その老朽化になった、いわゆ

る支柱なども対象にはなるというふうなことでございます。主にはLED化というようなことでございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ということは、LED化する金額よりも老朽化した電柱を直すほうが安いってということなんですかね。LED化が事業で直すこともできるという、そういう事業なんですか。何かイメージがよくわかんないです。全部直すっていうふうに思ってたもんですから、あくまでもLED化で、老朽化した鉄塔は直すこともできる。だとすると、鉄塔というのはそんなに金がかかるといってということなんですかね。

○小関勝助議長 梅津和士商工振興課長。

○梅津和士商工振興課長 ちょっと説明足らずで申しわけございませんが、LED化をするというふうな目的のための事業ではありません。あくまでも商店街のにぎわいを保つために、街路灯を修理、改修するというふうなのが一番大前提でございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 はい、わかりました。

3つ、高野町、大町、中央ということで、3団体が主体ということなんでしょうね。本町は街路事業で直りますので、あら町は比較的新しいということですかね。この商店街まちづくり事業の3分の2が充てられるということで、3分の1は自己負担というふうなことでしょうか。

○小関勝助議長 梅津和士商工振興課長。

○梅津和士商工振興課長 議員のおっしゃるとおりでございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 先ほど商店街にはなるべくお金がかからないようにと、負担がないようにっていうふうになにか答弁されたと思うんですが、そこはどういう意味だったんですかね。自己負担ですよ、3分の1自己負担ということ

ですよ。課長、お願いします。

○小関勝助議長 梅津和士商工振興課長。

○梅津和士商工振興課長 先ほども申し上げましたように、3分の1につきましては長井市のほうからの補助、いわゆる工事費などについては補助を検討しているというふうなことでございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ということは、その外郭団体のほうからまちづくり事業で認められた3分の2がまず来ますよね。3分の1は商店街で負担するところを、それも市のほうで負担するよと。商店街のほうは、あくまでも毎年かかる電気代だけだよという、そういう意味ですか。

商店街も、私も商店街にちらっと入ってるもんですからわかってるんですけども、ずっと積み立てしてて、もともと自分たちでつくった街路灯ですので、地元のまちからも支援はありますけれども、まず自分たちでつくった街路灯で、自分たちで基本直さなくちゃいけないということずっと積み立てているはずで、多分どこの商店街も。そうでないと維持できないと思いますけれども。自己負担するつもりでいると思うんですけど、それでいいんですかね。全部何かやってもらえるっていう、そんな事業でいいんですか。

○小関勝助議長 梅津和士商工振興課長。

○梅津和士商工振興課長 各商店街、3つの商店街で若干申請の内容は違いますが、基本的には電気代のほう、いわゆるランニングコストのほうは地元の商店街で持っていただくというような考えでございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 商店街としてはうれしいばかりだと思います、それは。でも本来は、商店街の人から何か怒られそうですけれども、もともと商店街は自分たちで何とかしなくちゃいけないっていうふうに思っているはずなんです

よ。そういう趣旨ですよ、本来もともとそういう趣旨ですよ。それは地区の防犯の機能もありますけども、街路灯ってというのは、商店街のにぎわいのために自分たちがお金を出してやりくりしてるわけで、それを何か全額っていうと、何となく疑問に思うんですが、これ以上言うと商店街の人に怒られそうなのでこれ以上言いませんけども、何か至れり尽くせり過ぎるのかなっていうふうに思いました。わかりました。

雨水のほうに行きます。雨水排水用の側溝なんですけど、私が近所を歩いているとあるんですよ、草ぼうぼうで、もうすごい生えてるところが。それ県道なんですけども、県道ですけれども、その地区の方とか住民の方は、ということは地区長などは何も市のほうに言っていないということなんですかね。

よく言われるのは、洪水というか、水路が冠水する、あふれるのも砂や泥が常にあるからで、その理由もあるんじゃないのかということで、去年も言われましたし、ことしももちろん言われました。それは地区のほうには、そういうところがあれば県なり市なりの道路維持のほうでやりますよとか、あるいはさっき言った協働のまちづくり事業で皆さんと一緒にしましょうよとか、そういうことはちゃんと地区の方とかはわかっているんですかね、そういうことがあるということが、建設課長。

○小関勝助議長 松木 満建設課長。

○松木 満建設課長 地区長の皆さんには説明をさせていただいております。協働のまちづくり事業の説明とか、あとは道路に異常があれば、いつでもこちらのほうにご連絡をいただきたいというようなことで、市道、県道ということはおかかわらずということで、先ほど赤間議員からありましたように、市民の皆さんからすれば同じ道路だというふうなことで、そういう異常な点があれば、地区長さんから基本的にはご連絡をいただいたり、あとは一般の市民の方でも

結構ですので、気づいたところがあれば建設課のほうにご連絡をいただきたいというふうに思います。以上です。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ということは、じゃあ、よくわかってなかったんですかね、そのときたまたま。私に、とにかく泥や砂を何とかしないと、そんなのは毎年あふれっぺ、当たり前だべなんて言われたんですけども、じゃあよくわかっていらっしやらないのかもしれない。ぜひそのことは今後もさまざまな場があると思いますので、なお言っていただけるように、私もそういうふうにしますけれども、ぜひ言っていただけるようにしていただきたいと思います。

もう一つですが、水路に雨水が大雨のときに集まったときに、下水道に流すっていうことは長井市ではしてないんですかね。いろいろ調べると、都会のほうなんでしょうか、下水に雨水を流して、要するに冠水を防ぐ、床下、床上浸水を防ぐという意味で下水に流すというのがあるようです。長井市では、そこは、そういうような取り決めは、建設課と上下水道課でそういう取り決めしていらっしやるんですか、どういう状況になってますか。

○小関勝助議長 松木 満建設課長。

○松木 満建設課長 私からお答えをしたいと思います。

基本的には下水、長井の場合は地下に埋設した管の下水を一般の生活雑排水ということで流しておりますが、雨水に関しては地表流れてる、もともとは下水の計画の中では雨水幹線というようなことで、東京のほうですとでっかい地下のマンホールに全部雨水も生活排水も流しているんですが、長井の場合はそういう分離しているという形で、表面の川、今の長井ですと準用河川とほぼ一致してはいますが、そのところに下水としての水、雨水を流しているという形になっております。その辺のところは詳しく上下水道

課長……。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 答弁者に上下水道課長入れてなかった、いや、入れればよかったですね。ちょっとそこら辺がわからなかったんで、技術的なことで、今度折を見て質問いたしますけども、質問する時間がないですよ。下水道の賦課っていうんですか、料金の賦課に、たしか雨水の考え方があるのかですけども、住宅の面積で賦課かけているんじゃないんですか、建物じゃなくて。宅地面積っていうんですか、宅地面積で賦課かけてるっていうことは、何となく、ちょっとわからないですけども、雨水というイメージもあるのかなっていうふうに思ったんです。ちょっとこれは答弁者じゃないんで、もうこれ以上言いませんけども、それも一つの町なかの水路があふれることを防ぐことができる、何か予防というか、あふれないようにすることができるんでないかなっていうふうにちょっと単純に思ったもんですから、建設課、上下水道課でその辺のところを災害対策という意味も含めて、ぜひ打ち合わせをしていただきたいなと思っております。

一般質問では、もう質問できませんけれども、個別にこここのところ、ちょっとまだわかっておりませんので、もう一回、個別にお聞きしたいと思います。

一般質問は以上で終わります。ありがとうございました。

○小関勝助議長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時15分といたします。

午後 2時53分 休憩

午後 3時15分 再開

○小関勝助議長 休憩前に復し、会議を再開いた

します。

市政一般に関する質問を続行いたします。

## 梅津善之議員の質問

○小関勝助議長 次に、順位10番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 9月定例会最後の一般質問になりました。お疲れのところと思いますが、最後までよろしくお聞きしたいと思います。

朝晩もめっきり涼しくなりました。過ごしやすい季節になりました。毎週末、各地区の神社では祭りばやしの声も響いてまいります。私の心もどきどきしているところではございますが、どきどきするどころか、はっと思うととまりそうになるようなときがあります。みずからの器の小ささと中身のなさを実感する毎日でございます。

日本各地では集中豪雨の災害や、我がまちでも7月の9、10日と集中豪雨の災害がございました。デング熱やエボラ出血熱、各国で起こる紛争など心休まるときがありません。いつの日か幸せを実感する長井で、ゆっくりと祭りばやしを穏やかな気持ちで実感できる日を望みながら、みずからの小さな小さな質問ではございませぬけれども、一般質問を通告のとおりさせていただきたいと思っております。

まず、1番目の農業委員会制度についてでございます。

農業委員会等の見直しについては、公選制から市町村長の選任制への変更、委員数の半減、農地利用最適化推進委員会の新設、意見の公表、建議、諮問と答申等の法令業務からの削除、都道府県農業委員会、全国農業会議所制度の指定法人化など、組織の根底を揺るがす内容となっ